



特集

くわなのウェルビーイング「ボランティア」

誰かのために。 自分のために。

市内では、さまざまなボランティア団体がみんなのつながりを支え、地域を活性化させています。
今月は、障害者をサポートするボランティアに携わる人たちにスポットを当て、
活動内容やその理由を紹介します。

問 この記事については秘書広報課(☎24-1492 FAX 24-1119)

ボランティアに 参加するには？

社会や他者のために、自発的に活動することをさすボランティア。桑名でボランティアをしてみたいと思ったら、桑名市ボランティアセンター(☎ 22-8218)や桑名市市民活動センター(☎ 24-1184)で相談してください。

ボランティア
センター
登録団体



市民活動
センター
登録団体



令和7年度からシリーズ 「くわなのウェルビーイング」が スタートします！

身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをさす「ウェルビーイング」。桑名では、地域社会とのつながりや自然環境保護、健康促進、経済的安定などによって、市民一人一人が心豊かに暮らせるまちをめざしています。そこで今年度は、市内のさまざまな活動団体に注目し、活動に対する一人一人の「思い」をご紹介します。皆さんも参加してみませんか？

広報 くわな KUWANA

目次 contents

- 02 伸びゆくまち・桑名
第35弾 生まれ変わる伊勢大橋
現場で橋の架設工事スタート
- 04 キラリ★くわな人ワールドレポート
- 05 **特集** くわなのウェルビーイング「ボランティア」
誰かのために。自分のために。
- 08 桑名市カスタマーハラスメント防止条例施行
- 10 今年度から胃がん検診(胃カメラ)を実施します！
- 14 令和8年度採用桑名市職員募集
第18回美し国三重市町対抗駅伝
博物館の年間展覧会スケジュール
- 16 未来につなぐ老舗企業
女性のウェルビーイング推進宣言
子ども・子育て応援センター「キラキラ」移転などのお知らせ
- 18 子育て広場・図書館・六華苑・博物館

- 20 メディカルニュース、くわな防災教室
- 21 人気の給食レシピ、みんなの掲示板
- 22 EVENT ALBUM(イベントアルバム)
- 24 くわなINFO
- 32 無料相談
- 33 Sparkling Kuwana People World Report
市長まちなか探索
- 34 HAPPY BIRTHDAY
桑名のイトコ教えてください。

今月の表紙

新しい伊勢大橋の建設状況の写真です
(令和6年1月撮影)。17基の橋脚・橋台
が完成しており、この3月からは現場で橋
の架設工事が始まっています。



桑名市で子ども向けの英語スクール「桑名フォレストインターナショナルプリスクール」を開園・運営するオーストラリア出身のスペイトダニエルさん。地方への移住で、理想的な暮らしを実現した人を表彰する「ニッポン移住者アワード」で、未来を担う子どもたちの成長を支える取り組みが評価され、「子ども未来賞」を受賞されました。



桑名フォレストインターナショナル
プリスクール 園長
スペイト ダニエル さん

意識しました。桑名を選んだ決め手は、自然あふれるロケーションと、物価も含め、土地価格も都会に比べて安く、子どもが生活する場所として最適だと感じたところだそうです。

スクールを開いた思いを尋ねると、「長年英語を教えてきた中で、単発の学習では生徒の伸びに限界があると感じたため、就学前からバイリンガル環境に身を置くことが最適だと考えた」と教えてくれました。

今後は、「このスクールのことをもっと皆さんに知ってもらい、年齢に絞ったカリキュラムを提供するなど、さまざまなニーズに対応できるようにしていきたい」と笑顔で話してくれました。



授業はすべて英語で行います。

くわな人 ワールド

世界をまたにかけて活躍している桑名市出身者や桑名市で活躍されている外国人の人にお話を伺いました。

ワールドレポート





講習会の様子

声を出すことがアンチエイジングに!!

桑名録音奉仕の会

声で情報を届ける
やればやるほど奥深い「音訳」

文学を鑑賞する目的で声に出して読むことは「朗読」と呼ばれますが、目で見るのと同じように声で情報を伝えるために読むことを「音訳」と言います。桑名録音奉仕の会では、広報くわなや市議会だよりなどを音訳し、データをCDへ記録して、視覚障害者の人たちに郵送しています。広報くわなの音訳データは市ホームページでも公開しています。また、音訳の講習会を行うほか、視覚障害者などへ録音図書データの提供をする「サピエ図書館」へ音訳データを送るなど、さまざまなものの音訳をしています。参加者の中には、本の読み聞かせをやった経験がある人もいますが、「退職後に何かボランティアをしたかった」「社会とのかかわりを絶たくなかった」という未経験から参加した人もいます。初めに音訳の講習会へ参加する必要がありますが、音訳の特徴である「過剰な解釈を控えて読む」というコツや、共通語のアクセントや鼻濁音などを学ぶことができます。録音は「雑音を入れない」「音量をそろえる」などに注意し、各家庭で行います。視覚障害者にとって声の広報は大切な情報源。「会の活性化のためにも、参加者が増えてほしい」と水谷さんは話してくれました。

興味がある人は5/7までにご連絡ください



代表 水谷さん

会員の声

音訳を通じて仲間ができました。その先には利用者がいて、自分のやっている音訳が人のためになることがうれしいです。



音訳は「技術習得ボランティア」だと思っています。ボランティア活動を通して自身のスキルアップができるのが魅力です。



桑名録音奉仕の会

活動場所 桑名市総合福祉会館（常盤町 51）、桑名福祉センター（大字額田 455-3）
会員数 39人 問 24-8798 ※桑名市ボランティアセンター登録団体



楽しいから、みんなで作るから続けられる
やまばと布えほんぐるーぷ

子どもも大人も夢中になる
布絵本や布おもちゃ

布絵本とは、布製の絵本のこと。物語を読み進める楽しさもありますが、布絵本にはボタンや面ファスナーなどを使った仕掛けが用意されており、触っても楽しい絵本です。もともとは「視覚障害があっても楽しめるように」と作られました。今では全ての子どもが喜ぶ絵本として人気を集めています。「やまばと布えほんぐるーぷ」は、現在30〜80歳の12人で活動しています。「参加できるときに参加すればOK」というスタンスで、月2回、みんなで集まって布絵本や布おもちゃ作りを進めています。全てが手作業なので、1つの作品ができるまでにかかる時間は半年程度。できあがった作品は、市内の児童発達支援センターなどへ寄贈しています。参加理由を聞いてみると「裁縫が好きだったから」「楽しいから」という人がほとんど。細かい刺しゅうや布の裁断、編み物、ボタン付けなど、それぞれ得意なことを担当し、みんなで作業を分担できるので、作品を完成させることができると言います。「自分のストレス解消にもなっていて、子どもたちに喜んでもらえて一石二鳥。メンバーの高齢化が進んでいるので、活動を続けていくためにも、参加者随時募集中です」と小林さんは話してくれました。

子連れ参加もOKです!



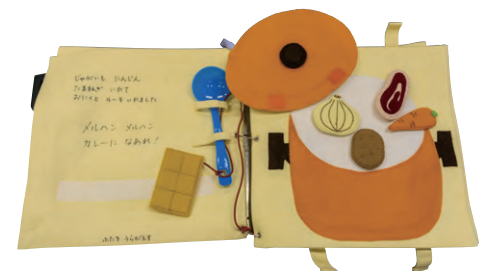
代表 小林さん

これまでの作品例

ホールケーキの布おもちゃは、いちごなどのトッピングも自由自在。



野菜の布小物を鍋の中へ入れ、鍋の蓋をひっくり返すと…カレーライスが完成!



やまばと布えほんぐるーぷ

活動場所 桑名福祉センター（大字額田 455-3） 会員数 12人
※桑名市ボランティアセンター登録団体